

○清水課長 皆さん、こんにちは。

本日は、年度末の大変お忙しい中、ご出席を賜りまことにありがとうございます。

それでは、定刻を少し過ぎておりますけども、ただいまから平成30年度第3回目となります宇治田原町総合教育会議を開会させていただきます。

本会議につきましては、宇治田原町審議会等の活性化指針に基づき公開としており、事前に会議開催日時を町ホームページにおいて告知の上、傍聴を希望する方に対して傍聴を認めることとしております。

傍聴者におかれましては、お手元に配付させていただいております宇治田原町審議会等傍聴要領に従い、適切な会議運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等について情報を提供することとしておりますので、各位におかれましてはご了承いただきますようお願い申し上げます。

本日の会議は、お手元にお配りをしております次第に沿って進めてまいりたいと考えております。

まず、開会に当たりまして西谷町長よりご挨拶を申し上げます。

○西谷町長 皆さん、改めましてこんにちは。

先ほどは、教育委員会のほうで熱心にご審議を賜りまして、まことにありがとうございました。

本町も春分の日が既に過ぎまして、春の陽気も一段と濃くなってきたところでございます。

本日は、平成30年度第3回の総合教育会議のご案内を申し上げましたところ、皆様方には、大変公私ご多用のところではございますがご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、平素は本町の町政の推進、とりわけ教育行政に何かとご指導、ご尽力を賜っておりますことをこの場をおかりいたしまして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、小学校及び中学校におきましては、先日、厳かに卒業式が挙行政され、多くの児童生徒が新たな場に巣立つとともに、また、4月からは新たに新入生を迎え、新しい年度がスタートすることとなっておりますところでございます。

本町におきましても、平成31年度における当初予算の審議がただいま大詰めを迎えておるところでございます。町議会にご可決いただいた後は、適正に、また迅速な事

業及び予算執行に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

その中で、宇治田原町を担う子どもたちに関する小中一貫教育の推進についても、平成30年度は3回の総合教育会議を始め、一貫教育に係る説明会の開催また教育委員会での議論など、活発に取り組んでいただいております。心から感謝を申し上げますところでございますけれども、私といたしましても住民の方々の、また保護者の方々の意見を聞くとともに、教育委員会また小中一貫教育に関する特別委員会、これも議会のほうで委員会を設立していただいておりますので、議会のほうにも十分相談させていただく中で推進してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

本日におきましても、この総合教育会議の設置趣旨であります首長と教育委員会の意思の疎通はもとより、教育課題や推進すべき教育施策の方向性を共有することなど、より一層連携し、教育行政を推進していくために貴重な機会と捉えておるところでございます。

どうか皆様方には忌憚のないご意見を賜りますよう心からお願いを申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞご苦労さまですが、よろしくお願ひ申し上げます。

○清水課長 ありがとうございます。

それでは、本日配付しております資料のご確認をお願いしたいと思います。

まず、次第が1枚、次に、出席者名簿が1枚、そして、小中一貫教育に係る質疑、意見、要望事項への回答についてとして取りまとめたものがA4裏表2枚、また、2月に発行した教育委員会広報「宇治田原町の教育」、これまでの説明会の報告、A3裏表1枚、それから、宇治田原町小中一貫「維孝館学園」クリエイト会議設置要綱に関するものとしてA4裏表1枚の合計3種類、6枚でございます。

よろしいでしょうか。

それでは、早速協議事項に入ってまいりたいと思いますが、円滑な意見交換のため、これまでと同様、本日の議事の進行を、私、清水のほうを務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の協議事項につきましては、お配りしております資料のとおり、(1)番としまして、小中一貫教育について、平成30年度における取り組み(総括)と今後について、(2)その他となっております。

まず、1つ目の議題、小中一貫教育についてにつきましては、説明のほうお願いいたし

ます。

○岩井学校教育課長 それでは、失礼いたします。私のほうよりご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは、お手元のほうには事項への回答の資料のほうと、それから宇治田原町教育委員会の広報のほう、お手元をお願いいたします。

本年度の取り組みといたしましては、広報「宇治田原町の教育」の発行、また小中一貫教育説明会などの実施を経まして、保護者、住民の皆様方のご意見等を取りまとめ、報告してまいりました。

本日の会議につきましては、先の会議でご説明いたしました主な質疑、意見等に係る回答についての考え方と、今後進めていくに当たり、課題を検討する機関として小中一貫「維孝館学園」クリエイト会議の設置につきまして、私のほうよりご説明を申し上げます。

まず、小中一貫教育説明会でいただきました質疑等につきましては、お手元の広報紙によりまして内容をお伝えさせていただいた状況にとどまっております。ご回答させていただくに当たりましては、単に一問一答になるものは少ない状況でございまして、教育的視点に立ちまして一連のものとして丁寧に協議、検討を踏まえ、総合的にお答えをさせていただかなければならないというふうに考えております。

細かく事項ごとにご説明申し上げます。

まず、A4の横版、教育制度の欄をお願いいたします。

この教育制度でございしますが、小中一貫型小学校・中学校か、また義務教育学校かといった選択。そして、教育課程における区切りを現行の6・3、これをどのような形にするかといった教育の根本的な協議を進めていかなければなりません。それぞれの型の特性を踏まえ、どのような教育制度のもとで特色ある一貫教育あるに取り組むのか。また、子どもたちの発達段階や成長の段差に適切に対応する観点から、本町の特性を生かした学校づくりをしっかりと検討していかなければならないと考えております。

次の学校施設につきましては、安全対策に係る関係機関との早期協議が必要であるとと考えております。また、子どもたちが9年間、心身とも成長できる学び舎やとして、既存の教育施設も効率的に利用し、教育環境を整えていきたいと考えております。

なお、跡地利用につきましては、学校施設も含め、公共施設を町全体で協議することになると考えております。

次に、裏面になりますが、保護者の関心が最も高かった通学方法の考え方でございま

す。こちらにつきましては、学校からの距離を基準にした徒歩圏の設定、そして、路線バスなども視野に入れてバスの配車を検討しています。また、新たな通学路となる安全対策や現在もお世話になっております交通指導員、見守り隊の方々にも通学路等の変更に応じた状況でお世話になりたいと考えております。

なお、中学生につきましては、奥山田地区以外は自転車並びに徒歩通学とし、現在の徒歩通学圏内の生徒も自転車と徒歩の選択を可能にしたいと考えております。

次に、広報・発信につきましては、広報紙の定期的な発行や広報手段の検討などのご意見をいただいているところでございます。今後、検討会議等で協議いただく内容を広報紙またホームページでお伝えするとともに、あわせて説明会を開催し、丁寧な情報発信、説明に努めていきたいと考えております。

次のページになります。

小中一貫教育を導入する学習指導上、生徒指導上のメリットにつきましては、先行事例による主な成果として報告されております、児童生徒は学習意欲や規範意識の向上、異学年交流による自己有用感が高まっているという状況でございます。教職員につきましては、お互いの指導に係るよさを認識し、技術や専門性を取り入れたり、協力する意識の向上など、教育活動の充実が見られたというところでございます。

また、一方で、児童のリーダー性や教職員の研修等の課題も指摘があるところではございますが、課題に対する対応策というものも蓄積をされてきている状況でございます。

また、次の施設一体型にする必要性と学校統廃合に対する反対の意見としては、伝統ある地域の学校に対する住民の皆様の思いはしっかりと受けとめる中で、現状また今後の状況を考えると、適正な学校規模を確保し、子どもたちに望ましい教育環境を整備するには、分離型より一体型のほうが有効と判断したことを今後も丁寧に説明をし、ご理解をいただくよう努めていきたいと考えておるところでございます。

以上が、ご意見、要望等に関する回答の考え方となっております。

それでは、次に、ただいまご説明を申し上げました考え方を具体的に協議、検討を進めるに当たって、どのように行うかということにつきましては、まず1点目といたしまして、従来ありました在り方検討会議や小中一貫教育推進協議会の協議内容等を検証して発展させていくという考え方。そして、2点目といたしましては、以前より保護者や住民の皆さんの声を反映させたいとの思いがありましたことから、検討する場に皆さん方に入っていただくということ。3点目につきましては、それぞれのお立場、そして関心の度合いから、保護者や住民の皆さんに入っていただく為には専門部会を設置いたし

まして、その中で十分な協議や検討を行えるようにするといった3点を考慮しまして教育委員会に諮り、検討する会議の設置要綱を策定したところでございます。

お手元のほうには宇治田原町小中一貫「維孝館学園」クリエイト会議設置要綱のほうをお願いいたします。

こちらにつきましては、現在使用しております愛称の維孝館学園を用いまして、小中一貫教育を推進するために皆さんで創造していく、クリエイトしていくとの思いで名称をつけたものでございます。

順に要綱につきましてご説明を申し上げますが、まず、要綱の内容の1条、2条に目的、設置そして所掌事務とございます。こちらにつきましては、先ほどご説明いたしましたように、これまでの積み重ねを継承し、小中一貫教育を推進するという目的になっておりますので、さきの2つの会議の目的等を参照して作成したものでございます。

次に、3条、7条の組織、それから専門部会につきましてですが、検討事項がかなり多岐にわたる関係上、教育制度等につきましては学識者また教育関係者などの方に入っただき、通学課題や地域課題につきましては保護者や地域関係者など、さまざまなお立場の方にお集まりをいただきまして十分協議をいただくための専門部会を設置するとともに、全体会におきましては課題を共有する中で共通認識を図って進めていきたいというふうに考えております。

その他、任期につきましては、1年間。クリエイト会議には、委員長、副委員長、また専門部会には部会長をとということにしております。協議内容により必要な場合は、委員以外の出席を求め、説明等を行うこともできるとしてしております。

以上が内容でございますが、先の在り方検討会議と一貫教育推進協議会につきましては、こちらで引き継ぐことから廃案というふうに考えております。

今後、広報紙におきまして、この考え方をお知らせするとともに、小中一貫教育を推進いただくクリエイト会議の委員に係る住民公募を行いまして、会議開催へと進めてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○清水課長 ただいま、資料に基づきまして、小中一貫教育に係る質疑、意見、要望事項等への回答、また、宇治田原町小中一貫「維孝館学園」クリエイト会議設置要綱等につきまして説明のほうをさせていただいたところでございますけど、何かこちらにつきましてご意見等がございましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

教育委員さんのほうでどうでしょうか。これを見ていただいた中で何かご意見等。

○山本委員 第6条の専門部会についてでございます。今、内容的には明記をされておらないので、どのような部会があるか、お願いします。

○岩井学校教育課長 現在、考えているところでございますが、先ほど申し上げました教育制度の部会が1つ、そして通学部会が1つ、そして地域・広報部会が1つということで、現在、3つの部会を考えているところです。

○清水課長 よろしいでしょうか。ほかに何かご意見等がございましたらよろしくお願ひします。

○山本委員 この部会なんですが、大体どれぐらいの期間でまとめていただけるのか。その専門部会でまとめていただいたものを我々教育委員会と、あるいはまた行政側の整合をとる上で、また総合教育会議に諮った上で、その結果をまた改めて専門部会にかけるとかという形で行われるのかどうか、お聞かせください。

○岩井学校教育課長 まずは、やはり教育委員会でのご協議ということで、各専門部会のほうにも一応こちらの考え方に基づいた素案というものは提示をさせていただく中でご協議をいただきたいというふうに考えております。また、そこから戻ってきていただいたものを教育委員会、また総合教育会議等でご協議いただき、また専門部会全体会議で協議をしていただくという、繰り返しの積み重ねの形を考えているところでございます。

一応、委員の任期というものは1年としているところでございます。ただ、これから先、6年という中で、かなりいろんなことを協議していかなければなりませんので、ある程度協議がまとまってまいりますと、次に新たな課題等も出てまいりますので、その場合は新たな専門部会に引き継ぎをしていただく形で次のステップへ進めていただきたいと思いますというふうに考えております。この段階がある程度決まりましたら、今度は施設に係る建築委員会なり、次につないでいくということになってまいりたいと思います。

以上です。

○清水課長 よろしいでしょうか。そのほか、何かご意見ございませんでしょうか。

○田中教育長職務代理者 クリエイト会議が住民の方やいろんな方の中で望ましいものをつくっていただけるようになるのは非常にいいことだなと思っています。

そこで、3条の委員なんですけども、町長がよく言われている、ほかの者が見て「わっ、行きたい。いい学校やな」と思う学校にしようと思ったら、やっぱり従来の感覚を持つて委員だけでは飛び出せないというんですかね。これから教育課題というのは日進月歩でやっぱり変わっていくと思います。例えばITにしてもそうですし、ほかのものでも非常に変化していくと思うんです。それらを先読みできる人というのは、実はや

っぱり全国的にもかなり先に行ってる人だと思いますし、そのような人をぜひ呼んでほしいと思う。それにはやっぱりお金が要ると思うんですけど。この学識経験者で、これは私なんかを言うてるんですが、どんぐりの背比べではいい案が出てこないんじゃないかと。例えば地域立にしたら、地域で予算や人事権を持つぐらいの地域立の学校にするとか、そういう地方自治を見通した学校体制とか、それからIT施設をかなり取り入れるとか、それからアクティブ・ラーニングができるような活動的なオープンスペースにするとか、私たちでは創造つかないような先見的なものをたくさん持つておられるすばらしい先生をぜひ呼びたいと。そういう意味で、外から、お金を惜しまないで、いい指導者を迎えてほしいなと私は思っています。外からという言い方、変ですかね。外でなくてもいいんですが、そういうなるほどと思うような方をぜひ1人は欲しいなと思います。

○清水課長 ただいま田中職務代理さんから、1項の学識経験者で、外部内部を問わず、先見的な知識なりを持った方を委員にしてはどうかというご意見が出ておりますけど、それについて。

○岩井学校教育課長 今、田中委員のほうからもご指摘ございましたけれども、思い描いている方はいらっしゃいますので、その方に早急に当たっていきたいというふうに考えております。

○清水課長 よろしいでしょうか。そのほか、いかがでしょうか。

○山本委員 1項の学識経験者のほかに、あとは若い世代、学生さん、特に大学生の中で、そういう学校関係の教育関係に詳しい方の知識も得られたらどうかなと思うんですけども。研究部会とかありますよね、学校に。あるいはまた、それに特化したサークルとかありますね。だから、そういうふうな方をお招きして、また私たちも聞きたいなと思うんですけど、そういう機会をお願いしたいと思います。

○清水課長 そちらについて。

○岩井学校教育課長 検証してまいりたいと思っております。

○清水課長 そのほか、どうでしょうか。ただいま、クリエイト会議のほうにいろいろとご質問等いただいておりますけど、質疑、意見等の回答でも結構ですし、何でも結構でございますので、よろしく申し上げます。

大嶋委員、何かありますでしょうか。

○大嶋委員 1つだけ。地元の学校なんですね。だから、地元の人が子どもらの姿を描けるということが、まず条件かな。その描いたものを学識経験者なりが具体化していくという形にならないと、地域が目指すというか地域の思いを具体化した学校になっていか

へんのかなというふうに思いますので、やっぱり何か夢物語でもいいから語れないと。大学の先生は本当に全国の部分でいろいろ知ってはりますので、こういうことはできないのだろうかということ、その部会の中で出せることが大事かなと思います。そうすると、こういうが学校あるし、こういうも学校あるし、それで紹介してもらいつつ、宇治田原に合うような形ができ上がっていくのかなというふうに思いますので、その部分を先生と一緒に考えていくことが。そうしないと、やっぱりこれが50年、長く100年という形になる可能性もあるわけですので、長く地域に愛される学校になってほしいなという思いはあります。

○清水課長 ありがとうございます。

杉野委員さん、何かございますでしょうか。

○杉野委員 クリエイト会議をされるに当たって、委員さんなんですが、例えば児童生徒の保護者という文言がありますが、これをPTAの充て職にはしてほしくないなというのがあります。本当に一生懸命、これからつくる学校のことを考えていただける保護者の方に是非ともなっていただきたいなと思います。どういった形で選んだらいいのかが私にはちょっとまだわかりませんが、是非とも学校の保護者の中でも一生懸命考えてくださる方をお願いしたいなと思います。

今から始まるわけですがけれども、任期が1年なので、では、この1年でどのあたりまで話を詰めるかというようなことをやはり最初から目標として掲げて話し合っていていただけたら、もう少しこの小中一貫教育についてのスピード感がアップするのではないかなと私は思います。

以上です。

○清水課長 ありがとうございます。

保護者の中でも熱意を持った方にぜひとも委員になっていただきたいということと、任期を考えた上で、それを見通した上でこの会議を進めていってほしいというご意見だったかと思いますが、ありがとうございます。

そのほか、何かございますでしょうか。

○山本委員 施設のあり方を見極める条件として、やはり将来の児童生徒数の状態、あるいはまた社会情勢の状態もございますけれども、基本的には町の人口の推移というものが大変重要になってくるのではないかなと思います。その辺で、まちづくりの関係を十分整理をしていただきまして提供をお願いしたいなと思うんですけども。

○清水課長 町人口の推移を見る中で、まちづくりにつなげるような形でのということ



すね。

○奥谷総務部長 以前の会議でも少しお話し申し上げたかと存じますが、平成31年度で町の一番基本、大元となります総合計画の現在の第5次まちづくり総合計画の前期部分の計画期間が満了いたしますので、31年度、1年間をかけた今後の後期部分の見直し、改定をしたいと考えてございます。その中で現在の人口見直し、見直す見直さないというよりも、これまでの実績を踏まえ、今後どのような人口方向を目指していくのか、どういう方向になっていくのか、そういうところを再度、もう一度検証する中で、もう一度人口見直しをしっかりと立てていきたいと思っております。その中で例えば児童数の関係も出てこようかと思っておりますので、そういうところを明らかにする中で、こういう教育の議論とマッチングさせていく必要があるのかなというように考えております。

○西谷町長 ちょっとよろしいか。

今のお話の件ですけれども、いろいろと今までからも総合計画の中の人口推移、これは2040年には1万人という目標を掲げてる中で、今、9,300人台になってるやないかと。子どもがだんだん減って単学級になってくるやないかという中で、一方では人口を増やそうと町は言うてるのに、一方では子どもが少ないから統合するみたいな話にもなっているわけですけど、ただ、私自身は人口はある程度伸ばすように努力は絶対していかなければならないと思うし、今、9,300人台が例えば何十年後には7,000人台になりますから目標8,500人にしますねんというのは、僕ら、民間にいた人間としたらナンセンスな話で、やっぱり今よりは上向いて頑張っていこう、これは間違いないと思います。

それと、もう一つは、やっぱり学校は魅力ある学校、さっきもおっしゃっていただきました、行かせたい学校にしていくことによって、子どもの人口、また移住・定住による全体人口がふえていければという、私自身はその気持ちが大変強うございまして、下京区なんかいうたら結構、人口が増ふえてきている。何やいうたら学校がいいからということもうわさでは聞いておるわけでございますけれども、そういった中で、やはり学力、これについて施設一体型、隣接型にすれば、これだけの学力を伸ばすことができる。そんな全国学力テストの平均以上に全てがなるとかそんな目標じゃなくて、もっと例えば勉強もそうだし、人間的にもそうだし、やっぱり考える力であり、生きる力なり、人を大切にすることなり、総合的に子どもが心豊かに、体も心も知識も、知・徳・体、全てが物凄く育ってくれる学校環境というのを僕は一番のイメージとしているところでございまして、それをつくり上げていきたいと。それを皆さんの協力のもとにやっ

きたいということが僕の一つの目標でございます。

そういった中で、子ども、現実に今、予測している部分では多分減っていくと。それを何とか盛り返していきたいという中で、逆に子どもが増えるように持っていきたいなと。そういう学校づくりを目指すというのが僕は第一かなというふうに思っております。

そういった中で、学校教育の教育制度、これについてはやっぱり専門的な方、これはおっしゃるとおり必要ですし、これから人工知能まで、AIまでが人間を超えと言われる、そういう時代が間もなく来ますよと。人工知能が逆に成長していく時代になりますよと。そこに人間はついていかんねらん。我々の時代と違って、我々の子どもの時代についていってもらわねらん。そういう部分では、今、田中先生おっしゃったように、そういう部分の先端を物凄く理解されている、そういう方の知識も僕はやっぱり今後の学校づくりには必要かなというふうに思います。

私は、今、よく聞くのは、通学はどうなるのですかということを物凄く地域の方、また子ども、小さい子をお持ちの方から聞きます。例えば距離でぶつと切ってしまう場合に、ああ、この距離やったら短いからという中でも、その距離が物凄く短いけども危険な場所であるかもしれないということは、やっぱりこういうクリエイティブ会議を立ち上げていただく中では、地元精通した、そういった方も絶対に必要やなというふうに思いますので、そういう部分も十分加味していただいて人選をしていかなければならないのかなというふうに思っておりますし、また、現場の先生方にも僕は入っていただくべきじゃないかなというのも思っております。校長先生なりのお話も聞かせてもらってるんですけども、やっぱり教室で教えておられる先生のこと、先生の現場での将来の学校というお話もやっぱり聞かせてもらいたいなというふうに私自身は考えております。

それと、今、維孝館中学校があるわけでございますけども、ここは黄色がついて土砂災害地域ということで、これは何であんな土砂災害のところに小学校を近所に持っていくねやというお叱りも受けておるわけでございますけども、この点につきましては、やはり中学校がそこにあるということも一つの子どもの安心・安全を守るために、浸水の場合はある程度、前もってわかるし、垂直避難もある程度可能と思うんですけども、やはり土砂となりますと、いつ崩れるかわからないという部分では、やっぱり京都府さんとも十分に対応を図っていただきますよう協議を進めていきたいなというふうに思っております。

小中一貫教育で実施されているところ、メリット、いろいろと中1ギャップが緩和されて、中学へ行く不安が半減したという、特に学園なんかの記事は載っておったところ

ですけども、そういうメリットのこともやはりもっともっと住民さんに発信して、理解していただく必要がまだまだこれからもあるんじゃないかなというふうに思いますし、そういった意味できめ細かい説明会というのも必要ではあるのかなというふうに思っておるところでございます。

僕、別に意見を言える立場にございませんので、僕は今こう考えてますということをちょっと皆さんにご報告をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○清水課長 今、町長のほうから町長の思いを込めて多岐にわたりまして話があったところですけど、そのあたりも含めて何かご意見ありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

○奥村教育長 私も実際、私の感じるところによると、やはり小中一貫の推進はちょっとここに来て、やはり進んできたなという感じも持ってますので、この流れを次のクリエイイト会議でスムーズに移行しまして、具体的な課題に取り組んでもらって前に進んでいかなあかなというふうに考えておりますので、確かに今の人選とかも重要なことですし、将来的な人数、生徒数、児童数を考える中で、いろんな課題も出てくると思ひますので、さっきおっしゃった、特に通学面については、その辺、慎重に協議していかなあかなというふうに思ひしております。

以上でございます。

○山本委員 基本的なことを申させていただきますんですけども、1つは、子どもたちにとって施設はどうかということです。2つ目は、学校、教育にとって施設はどうかのか。3つ目は、まちづくりにとって施設のあり方はどうかということをおは常々申しておりますので、その辺を踏まえてこのクリエイイト会議、成功裏に終われたらなと思ひますので、よろしくお願ひします。

○清水課長 ありがとうございます。

施設の在り方に結びつけていけるような形でこの会、クリエイイト会議のほう、十分な人選なりによりまして進めていけるような方向でやってほしいというご意見やっと思ひます。

教育委員会事務局のほうから説明をさせていただきますして、中身といたしましてはこういった中身で皆さん、特に問題ないということでもよしかったですか。ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、ほかにご意見ありましたら、この機会ですのでよろしくお

願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田中教育長職務代理者 とっぴな話ですけど、保護者への訴えかけとして、例えば宇治田原町は33人学級を実現しましたというのは、幾らぐらい予算がかかるか知らんけど、京都式少人数よりさらに進んだ方式でどれぐらい予算がかかるかという、これは売り出しとしては非常に大きなバリューがあるように思いますが、一回検討してみてもいいかなと思います。ただ、そういう人事とか予算を町独自でできるような、教員でも府の小学校の予算の中ですね。学校予算も国の小学校の中ですね。府で府独自措置やってる。そういう意味で、要するに地域立学校みたいな形での独自の教育制度をとれるような方向も踏まえて何か宇治田原式教育制度があつてすばらしいなというようなことが、一遍にみんなの目を引くような気はしますけどね。どんなんになるかわかりませんが。

とっぴな話ですので、今、思いついたところだけです。何学級ある、何学級あると表を今日を見せていただいて、いや、ここに入ってないと思います。さっきの教育委員会で出していただいた資料です。ああ、田原小学校、2学級の学年は2つだけか、あと全部1学級になるかというのを情けないなとか寂しいなと思いつつながら、せめて33人学級とか30人学級とかできたら。ただ、30人学級にすると、2つの学校からすると4学級になるけど、統合したら3学級ですというのはあり得ます。統合した場合には、学級定数を府独自で減らすことも一定目に見える形にはなるような気がいたします。

○光嶋教育部長 学級に対する定数、定員の問題なんですけど、やはり問題になってまいりますのは予算とおっしゃっていただきましたけれども、それと同時に教員の確保、それが非常に今、大きな問題になってきてます。今、小学校も中学校もどんどん子どもの数が減ってるので、特に中学校なんかは来年、クラスが2つ減っちゃうということになるので、教員ががんと減ってしまうと。となると、いわゆる正規の教員さんということではなしに、講師の方を確保しなければいけないと。講師の方も今、引く手あまたで、いろんなところへ行かれるので、なかなか人材の確保に窮しておるというような状況がございまして。そうすると、実際にももちろん費用を見るのは財政のほうの奥谷部長の範囲なんで、幾らでもいいよと言ってくれるとは別の話なんですけども、やはり財政的な面と教員の確保、これがちょっと今、大きな問題になっておるのは事実ですので、考えていく中では、そういうこともちょっとあわせて考えていかないと、なかなか人の確保が大変やという事実はございまして。

○清水課長 いいご意見をいただいたと思っておりますので、そのあたりも十分含めて考えていっていただきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

○西谷町長 跡地利用については、このクリエイトには。

○光嶋教育部長 別です。

○西谷町長 別ということやね。

○光嶋教育部長 跡地利用に関しては、今のところ奥谷部長のところの企画財政課の仕切りで、町全体の施設をどう考えるかという中で考えていきたいと思っております。

○清水課長 そしたら、今後の話、お願いします。

○光嶋教育部長 本日の総合教育会議にご報告させていただいた中で、一定このクリエイト会議をもって運営していけというようなご意見を賜ったということでありますれば、次年度以降、早急に取り組んでいきたい。次年度といいましてもあと数日で新しい年度になるわけでございますけれども、そうした中で、議会のほうでも小中一貫に関する特別委員会のほうを組織していただいておりますので、その特別委員会のほうでご説明、ご報告さしあげてから新年度早々にはこの会議を立ち上げて、早速部会の構成も進めていきたいということで、時間を置かずに、4月になりましたらすぐに動いていく予定をしております。

そういうこともございまして、先ほど岩井課長のほうからも、事務局としては腹案がございましてというようなこともありましたけれども、またそういった状況に関しましては、教育委員会での報告、また総合教育会議の開催等含めて、きめ細かくやっていきたいというふうに考えています。具体的には、できますれば連休前後ぐらいには第1回目の会議をやっていかないと、後、間に合わないというふうに思いますので、そこでどういうスケジュール感でいくかというのをオーソライズを委員さんの中でしていただき、部会ごとに動いていくといった形をとっていきたいなと思います。

ただ、部会の中でどれだけの回数をこなせるかというところまでは、まだちょっと現時点でははっきりと申し上げることはできへんのですけれども、方向としては今、私が申し上げた方向で事務局としては考えておるというところでございます。

○清水課長 ただいま、今後についてということで説明がありました。この件についてはよろしいでしょうか。何かご質問等あれば、よろしいですか。

そうしましたら、(1)の小中一貫教育についてということで、平成30年度における取り組み(総括)と今後についてという議題なんですけれども、こちらについて何かほかにご意見ございましたらよろしくお願ひしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。よろしいですか。

ないようでしたら、(2)番目、その他ということでございます。せっかくの機会でもございますので、その他、何かございましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。事務局、よろしいですか。

それでは、ないようでございますので、今回の会議のまとめのほうを西谷町長のほうからお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○西谷町長 本日は、小中一貫教育の推進についてご意見を賜りまして、まことにありがとうございました。施設に関しましては、維孝館中学校の近傍においてということで、小学校・中学校一体化するという、そういう整備する方向を打ち出しておるところでございますけれども、やはり教育制度、また子どもたちの学力向上、また先ほど申し上げました通学方法について、また災害面についてと、いろんな課題、不安が山積しておるところでございます、やっぱりそういうことはしっかりと解消していかなければならないというふうにつくづく思っておるところでございます。

そういった中で、山本委員が先ほどおっしゃっていただきましたけれども、子どもたちにとって、これは一番大事なことであろうかと思えますし、また施設はどうかとか、またまちづくりについてどうかということもあわせてやっぱり考えていかなければならないというふうに思っております。

私自身も宇治田原小学校出身ということでございまして、宇治田原町で私も大きくしていただいた。今日まで築き上げられた歴史と伝統を重んじる中で、町の将来を担う子どもたちによりよい教育環境、これを提供すること、これが本来の目的であろうかというふうに思っておるところでございます、それにつきまして今後も事業を進めていくべきであろうかというふうに思っております。

また、これまで説明会をいろいろな場所、またいろいろな世代の方に説明会を教育委員会で行っていただいたところがございますけれども、住民の皆さんや保護者の皆様より頂戴しておりますご意見、また要望に対しましても、やはり丁寧に説明を申し上げる中で、ご理解、ご賛同をいただけるように対応をとっていかなければならないというふうに思っております。

次年度以降、新たに設置いたします小中一貫のクリエイト会議におきましては、教育制度のあり方や通学方法、いろんな面で今、ご議論していただいて、ご提案していただいた分をより具体化するように議論を進めていきたいというふうに考えておりますので、今後ともご理解、またご尽力、ご支援を賜りますことをよろしくお願いを申し上げます。

総合教育会議の委員各位におかれましては、今後、またいろんな方からもご意見をい

ただくであろうと思っております。そういった中で、本当に子どもたちにとって一番いいのはどうなのか、まちづくりにとって一番どうなのかということも念頭に置いていただきまして、今後もいろいろなご意見、またご指導を賜りますようお願いを申し上げます。本日のお礼の言葉とさせていただきます。どうぞ今後ともよろしく願い申し上げます。ありがとうございます。

○清水課長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして第3回となります総合教育会議のほうを終了させていただきますと思います。

本日は大変お忙しい中、ありがとうございます。ご苦勞さまでございました。